



▲「宮坂流サイサイばやし」で式典の最後を飾る6年生

4校の絆を一つに 泉小学校が新たな一歩

4月25日、日吉、宇仁、西在田、泉の4校が統合した泉小学校（殿原町、児童290人）で、開校記念式典を開催しました。式典では、同校卒業生のピアニスト・高濱莉乃さんが制作した新校歌を披露。「ごめんね」「だいじょうぶ」「ありがとう」の「魔法の言葉」の歌詞を、児童が体育館いっぱいに声を響かせ、新たな歴史の第一歩を刻みました。

安全な通学を 北条中で交通安全教室

4月9日、加西警察署、交通安全協会、市の共催により、北条中学校で1年生138人を対象に交通安全教室が開催されました。加西警察署の蓑手利英警部補が自転車の安全な乗り方を指導。生徒は校庭の専用コースを走行し、一時停止や安全確認などを行いました。野田有希也さんは「安全な乗り方が分かった。事故に遭わないよう意識したい」と話しました。



▲交差点での一時停止と、左右・後方の安全確認を実践する生徒



▲令和8年4月から2年間ニカラグアで支援に従事する斉藤さん

JICA海外協力隊の斉藤さん ニカラグアへ

4月6日、JICA（独立行政法人国際協力機構）海外協力隊として派遣される斉藤聡さん（畑町）が市役所を訪れ、高橋市長に出発の挨拶をしました。斉藤さんは中米ニカラグアの国家技術庁に配属され、家畜飼育や飼料作物などの支援に従事する予定です。「農業はニカラグアの重要産業です。現地の人々の要望に応えられるよう努めたい」と決意を語りました。



▲五方の魔を払い、地域の平穏を願って空へ矢を放つ山伏

地域の宝を次世代へ 古法華寺で春祭り

4月12日、古法華寺（西長町）で「古法華春祭り」が開催され、多くの参拝客で賑わいました。日本最古の石仏とされる国指定重要文化財「古法華石仏」の公開や、多聞寺住職による読経、山伏による「護摩供養」などが執り行われました。古法華保存会の前田秀典会長は「地域の宝として次世代へ大切に引き継いでいきたい」と思いを語りました。



▲左から人権を守る活動に尽力された市浦さんと増田さん

人権を守る活動に尽力 二人に感謝状

令和8年3月末で、人権擁護委員の市浦義隆さんと増田恵美さんが退任され、その功績に対し神戸地方法務局長から感謝状が贈られました。お二人は令和5年より、人権相談や啓発活動に尽力されてきました。新たに菅野隆幸さんと高井勝仁さんが就任され、法務大臣からの委嘱状が交付されました。加西市では、合計9人の委員が活動中です。

鉄道存続を新聞に 池田さんコンクール銀賞

3月19日、市は池田陽輝さん（旧日吉小5年）に「さわやか市民賞」を贈りました。北条鉄道の存続を願い作成した新聞が、第19回「私とみんてつ」小学生新聞コンクールで個人部門・銀賞を受賞しました。池田さんは「乗客を増やそうと頑張る人の姿を知った。北条鉄道がずっと残るよう盛り上げたい」と笑顔で話しました。



▲個人部門の銀賞（社会科研究協議会副会長賞）を受賞した池田さん



▲4日、息の合った演奏を来場者に届けた北条高校吹奏楽部

新緑に響く音楽の祭典 フラワーセンター

5月3日から5日にかけて、県立フラワーセンターで音楽コンサートが開催されました。初日は雨のため会場を「花の展示ホール」に変更しましたが、市内4中学校の熱演が響き、盛り上がりを見せました。4日・5日は好天に恵まれ、新緑の「芝生広場」へ。北条高校、播磨農業高校、加西市吹奏楽団が、軽快な音色を披露しました。多くの来場者は、演奏に耳を傾け、温かな拍手を送っていました。

黄色いカバーで事故防止 新1年生に寄贈

4月8日、加西交通安全協会は児童の交通事故を防ぐと、市内の新1年生にランドセルカバーを贈りました。泉小学校の入学式では、同協会の徳久明宏事務局長が、新入生代表の井上蒼一朗さんに黄色いカバーを手渡しました。寄贈は20年以上続く活動で、今年は小学校と特別支援学校の合計9校、255人に届けられました。



▲「安全に登校してね」とカバーを手渡す徳久事務局長（左）と、代表で受け取る井上さん



▲快音を響かせ、鋭い当たりを放つ選手（＝アラジスタジアム）

横尾が3連覇 親善ソフトボール大会

4月26日、加西市スポーツ協会主催の「第49回町親善ソフトボール大会」がアラジスタジアムなど市内4会場で開催されました。21チーム約350人が出場し、熱戦を繰り広げました。■1部 優勝/横尾 2位/西南 3位/吸谷、笠屋 ■2部 優勝/栗田 2位/福吉 3位/田原 ※横尾と西南は代表として秋に開催される北播大会に出場予定。

有機農業の担い手を育成 アカデミー開講

県立農業大学校（常吉町）に「有機農業アカデミー」が設立され、4月8日に開講式が行われました。本課程（1年制）は、最新トラクターや個別管理のビニールハウスを備えた充実の環境で、実践的な有機栽培技術を学びます。1期生として20～60代の男女6人が入学し、地域農業の新たな担い手に向け、一歩を踏み出しました。



▲テープカットで開講を祝う齋藤元彦知事（左から2人目）ら